

高知県教育委員会 会議録

平成26年2月教育委員協議会

場所：高知県庁 正庁ホール

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年2月18日(火) 13:00

閉会 平成26年2月18日(火) 14:25

(2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	中澤 卓史

(3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	参事兼小中学校課長	永野 隆史
〃	高等学校課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	小野 広明
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	近森 公夫(会議録作成)

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 (協議内容の説明)

前回の協議会に続き、県立高等学校再編振興計画の検討案について、ご協議願いたい。

本日は、前回の協議会で十分に意見をいただいていた2月6日に行われた総務委員会における意見に対する考え方及び2月15日に行われた高知南中学校・高等学校保護者会での意見等についての協議をお願いする。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○質疑

委員	<p>＜総務委員会における意見について＞</p> <p>適正規模の話だが、4学級と6学級との具体的な差について明確にする必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>4学級と6学級との違いについてである。1つ目は、先ほどの説明にもあったが、生徒の希望に対応したコース設定があげられる。例えば、文系、理系のような大きな分け方があり、それをさらに国公立進学コース、私立進学コース、短大コースなど生徒の進路希望に合わせたコースが6学級以上であれば設置できる。過去には、高知市内校については1学年10クラス規模の時があり、明確に生徒の進学希望によりクラス分けができていた。今は、6学級と学級数が少なくなり、5教科型と3教科型にしか分けることができない。これが4学級となると、文系、理系が各2クラスとなり、きめ細かな分けができなくなる。</p> <p>2つ目は、部活動の数である。6～8学級規模の学校を調査したところ部活動の数は変わらないが、各部活動に所属する生徒数に違いがある。これが4学級規模の学校になると、活動する部活動数が少なくなっている。例えば、サッカー一部においては、6学級規模では部員数が揃っていても、4学級規模になると試合に出場できる人数が揃わず大会に参加できていない学校もある。</p>
委員	<p>前回の議論の中で、教員数が制限されることがあった。高知県の予算に占める教員の人件費はとても大きく、これをさらに増やすことは難しいと思われる。その状況で、4学級にした時に、きちんとした教育を行うためにはどれくらいのかの加配教員が必要になるのかの議論が必要でないか。</p>
事務局	<p>6学級から5学級に減らすことになると、国の基準によると8名の教員減となる。高知南高校、岡豊高校、高知追手前高校、高知小津高校、高知西高校の普通科系の学校を一律に1学級減らした場合、40名教員が減ることになる。1学級減になることにより、教員数が少なくなり、現状のような教育課程やコース制などきめ細やかな教育指導が維持するために必要な教員数が足らなくなる。現状の教育課程を維持するためには、県単独予算で教員を雇わなくてはならない実態がある。</p>
委員長	<p>総務委員会では、県下の生徒数の減少状況及び高知市の生徒数の減少を説明したうえで意見であるのか。</p>
事務局	<p>総数的なことで、県下全体と旧学区ごとの中学卒業生数を平成15年度と平成25年度と平成34年の推計値を資料として示している。</p>
委員	<p>総務委員会でこのような意見があり、回答したということであるが、納得しているのか。どのような形で終わっているのか</p>
教育長	<p>総務委員会では、今の検討内容を示し報告したものである。今回の事務局案を示したものであり、この案に対して質問のある委員が質問したもので、質問をしなかった委員もいる。何かを決定する委員会ではなく、あくまでも今までの</p>

	<p>検討の状況を報告したものであり、それに対して意見があったことである。ここで意見をいただいた委員の方は事務局案に懐疑的な方である。ここには載せていないが、事務局案を白紙撤廃すべきではないかという声もあった。</p> <p>2番の適正規模についてであるが、ここには記載していないが、10年後まで適正規模を維持できるのではないかという意見もあったが、10年たってまた生徒数が増えてくる見込みがあれば、一時学級数を減らして頑張ってみる考えもある。しかし、10年先も生徒数が減っていくことが推測されている。そのことも見据えて判断していかなければならないと考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p><高知南中学校・高等学校保護者会における主な意見（抜粋）について></p> <p>高知南中高保護者会の説明の中では、「適正規模について」と「なぜ高知南中高なのか」に議論が集中しているようである。適正規模についても一度確認したい。保護者会では、適正規模が県全体では1学年4～8学級と示しているにも関わらず、なぜ高知市内は1学年6～8学級なのかとの意見が出ている。我々も議論してきたが、先程から話に出ているように子どもたちの教育条件を整えることがあげられる。規模が小さくなると、学習に関する事においては、多様な生徒に対応出来るクラス編成、コース選択の幅をもたすことができなくなる点や、部活動では、サッカーや野球のような多人数を要する団体競技ができなくなる点がある。また、学校の教育の質を向上していくために、教員の指導力も問題となるが、1つの教科で複数の教員が担当することで、教員が互いに切磋琢磨し、学校内での教科の指導の研究などに取り組むことができるメリットがある。</p> <p>高知県の課題として、教員の指導力の向上があげられる。困難を極めているのは、郡部の小規模校の教員の指導力低下が課題となっている。工夫も必要であるが、クラスが少なくなると教員数が少なくなり、同じ教科での教員の教科指導力の研鑽ができなくなる。このような視点が入ってくるのではないか。</p>
<p>教育長</p>	<p>今の委員長の発言以外にも、高校生の年齢から言えば、色々な友人との付き合いがあり、その交流の中で人間として成長していく点もある。一定の人数があるということは多様な人材が集まっているという面もある。</p> <p>本日の資料に書いてある点、先程の委員長の意見、そして、この人数の点があると思う。それを説明していくときに絶対的な要件ではない。色々な要素といくつかの問題点があり、その集合体として考えた時、小規模校では教育環境の維持が難しいということになる。一つ一つを捉えた時にこれが絶対的な要因とはならない。中山間地域の小規模校では、課題を抱えながら一生懸命補填をしながらやっていることもあり、そのあたりの説明が難しいところ。今回の保護者の方々からいただいた意見を見て、我々の説明の仕方も工夫していかなければならない。</p>
<p>委員</p>	<p>前回の再編計画を策定するときに適正規模を下げ、4～8学級に変えたとの話が以前あった。本来の適正規模は1学年6～8学級であるが、生徒数の少ない郡部の高校を閉校にせず、県下一律にするには、郡部の少ないところを鑑みた</p>

	<p>スタンダード（４～８学級）にしなければならなかったと理解している。今回は、中央部に関しては、前回に決めたスタンダードではないと理解しており、適正規模とするなら６～８学級と明確にするべきである。６学級を切れば閉校ではなく、地域の特性を考慮し適正規模より少ないけど維持していくべきであり、６学級規模以上を確保できるのであればできるだけ維持すべきだと思う。問題になっているのは、適正規模の言い方が、４学級以上あれば大丈夫であると聞こえてくる点である。</p>
<p>委員長</p>	<p>適正規模の表現の仕方について指摘があった。適正規模は各県において決め方が違っているが、全国的には６～８学級が多くなっている。先ほどの教員定数の計算の仕方も理解できるが、分かりづらい。もう少し分かりやすい説明の仕方が必要ではないか。客観的な資料が必要ではないか。</p>
<p>教育長</p>	<p>次に、なぜ高知南中高校なのかについて協議したい。保護者から軌道に乗っている学校をなぜ閉校にするのかとの強い意見があがっている。</p> <p>先程、事務局から保護者会での説明内容の報告があったが、このような事情があるのだから絶対にここ以外は考えられないということではない。いくつかの選択肢があり、専門学校はオンリーワンの特色のある学校でありニーズもあるので閉じることは難しい。そうすると普通科高校の特定分野の中からとなり、その中でもいくつかの選択肢がある。その中で今の状況から言えば県下で津波のリスクがある学校がいくつかある。そのリスクを取り除くことができるのであれば、将来の責任とすることで取り除くべきだという考えである。最終的に色々な要素の中で、津波のリスクを取り除くことが重要なファクターだとの思いがあり、高知南高校を統合対象とするということ考えたものである。上手に説明しなければならないことであり難しいことである。色々なファクターの中で、今の状況の中では津波というファクターを重視しなければならないと考えたところである。</p>
<p>委員</p>	<p>今後の進め方のところで、２つ３つ案がないのかとあり、本日の高知新聞でも２案、３案の代案はないのかとの記事が出ていた。代案として考えられることを考えたみたところ、適正規模については統合せずに一律に学級数を減らすことと統合することになる。そこで、どこの学校とどこの学校を統合するかを考えると、色々な統合の選択肢がある。先程、教育長が言われたようなことを考慮し今の高知南高校の統合案となった。この事により保護者のみなさんに多大なご心配をかけている。しかし、これ以外に案があるのか。</p>
<p>教育長</p>	<p>保護者の方や総務委員会の委員のから、高知市内校を一律に１学級減してもやっていけるのではないかという意見が出ていた。それは、今までもそのやり方でやってきた。１０年後、２０年後と今よりもまだ生徒数が減ることが予想される中で、絶対的要素でもないが一律に学級減をして学校を維持することもできないわけではないが、色々な要素の中で学校運営上難しい問題がじわじわと出てくるのではないか。そのような状況に陥る前に、適正規模を維持していくようにもっていくことが教育行政として責任ではないかという思いで今回の案を提示したものである。</p>

委員長	<p>統合について、学校の優劣は問題ではない。1つは、南海トラフ地震については避けては通れない問題である。もう1つは、高知市でも今後10年間で生徒数が約350名減る。県下の中学卒業生数のピークは平成元年で約13,000名であったのが平成25年は約7,000名と大幅に生徒数が減っている。今後も生徒数の減少は続いていく。</p>
教育長 委員長	<p>高知県の一昨年の出生者数が5,200名である。</p>
	<p>このような状態が続くことを考えると、先程の教育長の発言のように教育行政として将来展望の中での高等学校の配置となる。また、国際化の流れは、全国規模で進んでいるものであり国も指定校を作って重点的に取り組もうとしている。そうした中で、高知県もこの流れに乗っていかなければならない。その時は、学校の正しい配置のなかで取り組まなければならない。</p>
教育長	<p>グローバル人材の育成については、これから我が国でもグローバル教育の視点での物差しで人材育成をしていくことが重要となってくる。その時には、全ての学校に係わってくる。その中でも県としてグローバル教育をリードしていく学校を作っていきたいと考えている。保護者から、高知南、高知西で別にやっていけばよいとの意見があった。どちらにしてもやっていかなければならない教育である。高知西を先導校にしていくことは、高知西高校の現在の立ち位置から考えると良い判断であると考えている。さらにリードしていく学校となると高知南と統合した方が良いのではないかと考えたところである。</p> <p>教育長の立場として悩ましいところであるが、高知県の将来の生徒のために統合していくべきだと考えている。この考えは変わることはないが、保護者の方々から高知南高校を存続してくれとの意見は教育行政として辛いことであるが、一方で学校振興のため一生懸命に学校を残してくれという気持ちはある面嬉しい気持ちであり、複雑で辛い気持ちでもある。</p>
委員長	<p>もし統合の方向になった場合の在学している生徒の気持ちの点についてご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>高知南高校は今まで色々な実績を上げてきた学校だと思っている。私自身も高知南中高校に係わったこともあり残したい気持ちもあるので、高知南高校の良いものを継続させていくプランが必要であると思う。例えば、今すぐ高知西高校に中学校を作った場合に上手く運営できるのかという色々な課題がある。高知南中高校の苦勞して良い学校にしてきた経験を生かさなければならない。どのようにして中高の教員が盛り上げていったかということ統合していなかで生かさなければならない。</p> <p>私自身は高知南中高は残していきたい。津波に対してであるが、3年前の津波の映像を見て考えが変わった。海沿いに学校を建ててはいけないとの考えとなっている。以前は、建物がしっかりしていれば大丈夫だと考えていたが、あの映像を見ると船やタンクが流れてくる、海は火の海となるような環境の中に学校を残すことは非常にリスクが大きすぎる。お金はかかるが、高知南だけでなく、リスクのある学校には全て移転してもらいたいとの考えがある。しかし、来年高台に移転するから地震が来るのを待ってくれとも言えない。時間が経つ</p>

	<p>と人間は嫌なことを忘れてしまうものなので、あの時の怖いイメージが今では薄れているかもしれない。映像を見ると大変な惨事であったし、それが明日来るかもしれない。それを考えると一刻も早く移転すべきであるという気持ちもある。</p> <p>学校を運営していく教員からみると急激な変化は望ましくないということもあると思うが、安全対策の面からみるとできるだけ早く今の高知南高校の場所から別の場所へ統合しなければならないと思う。</p> <p>そのためにも、まずは高知南中高校の良いところを残して統合していくべきである。教育委員会でも最善の案を出している。安全面では今のままでも大丈夫であるが、もし津波が来て校舎が大丈夫であってもそこに何百人もの生徒が取り残された場合を考えると、そのリスクもできるだけ取り除かなければならない。保護者の気持ちもすごく分かるし、今までの取組も評価しているが、一方で津波でのリスクの点も共有しなければならない点だと思う。</p>
教育長	<p>前回の協議会の中で統合の進め方について、もっと知恵をだして欲しいとの意見をもらっていたが、その件についてはもう少し時間をいただきたい。</p>
委員長	<p>高知西と高知南の位置が逆であれば、高知南に高知西が統合されることになっていたと思われる。</p>
委員	<p>中高一貫教育、キャリア教育の実践など高知南の実績があるので、統合しても生かさなければならない。統合後どのようにしたら上手くいくかを事務局でも考えているようだが、委員の意見も参考にしてもらいたい。</p> <p>保護者説明会の意見で感じたことであるが、このままでは平行線である。卒業式や入学式といった大切な行事が迫っているので、教育委員の方々との話し合いをもちたいということであれば、教育委員の責任として机上での議論も大切であるが、現場に出て行って校長をはじめ関係者の方々と一度、話をするべきであると思っている。</p>
委員長	<p>学校の先生方との話し合うべきだとの意見であった。また、そのような機会についても考えてみたい。</p>
委員	<p>生徒の動揺は、この会で話を聞いただけでは分からないので、どこまで生徒のケアをできるのかを詳しく現場の声を聞きたいと思う。</p>
委員	<p>統合になること、生徒たちの負担をどのように軽減するのかを話し合いのプロセスで大切にしていかなければならない。形にしてやっていかなければ、平行線のままである。このように考えているということを具体的に示していく作業を早くしていくことが大切であり、完全に納得していただくことは難しいかもしれないが、そのような作業はスピードを上げてやっていく必要がある。</p>
委員	<p>昨年、大阪で小学校が統合されることに反対し、小学6年生が自殺したという悲しい話があった。大人の感覚では計り知れない子どもの精神的な状況もあるのではないか。今、保護者との話し合いがこの議題が出ているが、表に出ない生徒への精神的なケアを十分にしていけるべきではないか。大人では想像できない感情を抱えているかもしれない視点をもつことも必要である。生徒たちのケアについての視点も置くべきではないか。</p>

委員長 委員	生徒たちのケアについての方法も検討をしていかなければならない。 県立中学がその地域からなくなることによって、私立中学、市立中学しか選択肢がなくなる。このことに対して何かケアができないか。もっと市立中学校の魅力を上げ、普通に県立高校に進学できるようにしなければならない。県立中学校が努力して体制を整えたので、それを高知西中学校に伝えることも大切であるが、市立中学校にも波及しなければ意味がない。そのようにして県全体のレベルを上げなければならない。
教育長	今のたたき台でいくと高知南中を高知西中に統合し、定員を120名から80名へと少なくする考え方である。一定、県立中学校との選択肢は残るが、今の高知南中学と高知西中学校では校風が違ってくる。今、高知南中学校を選択している生徒の中には、市立中学校に進みたくないから高知南中学校を選択した生徒もいると思う。高知南中学校の入学者の地域性からみると高知市南部の中学校の振興策については、高知市教委と一緒にあって相当テコ入れしていく必要があるのではないかと考えている。
委員長	これは高知南中高だけの問題ではなく、県下全体の高等学校の配置と進路保障の問題にも係わってくる。郡部から高知市へ集中しないような対策もそれぞれの地域でも努力しなければならない問題である。 統合に向けての課題が浮かびあがってきたが、今後の進め方については事務局の考え方があるのか。
教育長	今までの協議会の議論を聞いていて感じたことであるが、「なぜ、6学級以上なのか」、「なぜ、高知南中高なのか」、「統合時の移行期間をもっと上手くできないか」の3点に対する説明を明確にすることを事務局として重点的に詰めなければならないと考えている。移行の在り方についてはすぐに結論が出るものではないので、時間がかかるかもしれない。 もう1つは、高知南中高校の保護者の方が教育委員との話し合いをもちたいとのことであったので、話し合いをもつのであればパブリックコメントの前に設定したい。パブリックコメントは県民に聞くものであるが、保護者の方々は当事者であるのでパブリックコメント案ができる前に話し合いの場をもつべきではないかと考えている。クリアすべきものがあるのでそれを見据えながら進めていきたい。今までは3月中にパブリックコメント案をまとめ、4月にパブリックコメントを行い、計画を策定しようとしていたが、このようなスケジュールでは今の状況から行くと少し難しいと感じている。もう少し必要な議論に時間をかけなければならないと考えているところである。
委員長	教育長の発言の3点については、客観的な資料が必要である。再度提出された資料で協議し、パブリックコメント前に話し合いをもつということか。
教育長	保護者は当事者であるので、県民にお示しするパブリックコメント前に保護者の方々と話し合いをすることが筋ではないかと考えている。
委員長	学校教員に対してはどのように説明していくのか。
教育長	難しいところである。本来は、学校教員には学校長が説明を行うべきであり、学校長が説明する方が組織としては良いと考えている。学校の教員がどのよう

	<p>な状態なのか正確に把握していないので何とも言えないが、状況によっては考えを変えなければならないかもしれず、今、即断はできない。建前から言えば、教育委員が直接教員と話すことはないが、それも状況によって変わるものである。</p>
委員長	<p>生徒への配慮等、学校での課題、教員からの意見があれば、学校でまとめて出してもらうことにしたい。保護者との話し合いの日程は、事務局と相談して決めていくことにしたい。</p>
教育長	<p>まず、3点を整理しなければならない。教育委員として、しっかりこの3点が腹に入った後でないと保護者とは話しぶらいと考えている。</p>
事務局	<p><本日の新聞記事について></p> <p>本日の新聞記事についてである。新聞では、中山間地域の学校をもう減らすことができないから高知市内校を減らすとのトーンでの記事であった。しかし、取材時において、県下全体の生徒数が減少すること、高知市内校には高知市内以外から生徒の流入があるがそれを勘案しても350名程度の生徒数の減少となるということで、高知市内校だけで350名程度の減少に対応しなければならないことに対して、一律に減らしていくのか、2校を統合して1校にするのかということを説明した。</p>
教育長	<p>中山間部の高校を減らすことができないから、高知市を減らすのではなく、中山間は中山間で頑張っていく、中央は中央で頑張っていく。中山間を減らせないから中央を減らすという論旨ではないということである。</p>
委員長	<p><須崎高校、須崎工業高校の保護者会の意見の紹介></p> <p>総務委員会では須崎高校と須崎工業高校の統合に対する反対意見はなかったのか。</p>
事務局	<p>特に意見はなかった。</p>
委員長	<p>統合に関しては課題をしっかりと解決してくようにという意見なのか。</p>
事務局	<p>須崎工業高校では、急ぎ過ぎているという意見や工業高校を単独で残して欲しいとの意見があった。須崎高校においては、統合後の教育環境の整備について示して欲しいとの意見があった。</p>
委員長	<p>普通科と工業科であるので、統合する際にはかなり運営上の配慮が必要である。具体的な内容については学校と共に話していかなければならない。</p>
事務局	<p>統合する際の教育環境の整備や通学路の整備についてもしっかりと取り組んで欲しいとの意見もあった。</p>
委員長	<p>須崎高校の場合は、津波被害が想定されている場所であるので、統合後は通学路の整備や教育環境の整備が必要である。</p>
教育長	<p>統合は津波対策でもある。須崎市は津波に弱い街であるが、まだ高台への対策が取られていない状況である。統合した高校に多くの人々が避難してくることを想定して学校づくりをしていかなければならない。新たな通学路兼避難路が必要であろうと考えている。地権者との話も必要となってくるが、そのあたりも</p>

委員長	含めて考えていかなければならない。併せて、その他の教育環境整備についても取り組んでいく必要がある。 他に意見はないか。 以上で、教育委員協議会を閉会する。
-----	---